

2019年2月24日 近畿旧友会ハイキングクラブ「燦歩会」例会（第478回）

日野ひな祭り紀行と 町並み散策（滋賀）



近江鉄道日野駅前バスを待つ間に、こんな看板に出会いました。「蒲生氏郷公」を大河ドラマに……  
蒲生氏郷（がもう うじさと）は、織田信長に従って各地に転戦、しかも28歳の時に伊勢松ヶ島に移っていますから、日野に滞在した期間はさほど長くはなかったのですが、これだけ町の人々の記憶に残るとは…。

3年前の5月に西国街道を燦歩した際、私たちは、明智光秀の勝竜寺城で、大河ドラマを熱望するポスターに出会いました。そして来年、遂に明智光秀を主人公に大河ドラマ「麒麟がくる」が放送されます。演ずるは、今や朝ドラ「まんぷく」で絶好調の長谷川博己さん。こう考えると、「いつか蒲生氏郷も……」

燦歩会、この日の参加は男性15名、女性4名。  
ようやく春めいてきた近江路日野を歩きます。  
この時期、日野の町は「ひな祭り紀行」と銘打って昔ながらの町家の随所でひな人形が披露されています。

近江鉄道日野駅から日野の町へバスに乗ります。  
10分程の道筋の半ばで、或る会社の前を通りました。  
会社の名は「日野薬品工業」。日野の町の歴史と深い関わりのある会社です。詳しくは後ほど。



まずお雛様を見て歩きます。古い街並みのそこかしこ、家の玄関だったり、縁側だったり、雛段がしつらえられています。まことに雅な風景です。中にはこんなタバコ屋さんも。



大通りに面したお宅では、こんな所もありました。  
板塀の格子を外して開き、御簾に赤い毛氈、そこから家内に飾られたひな人形を見る事が出来るのです。棧敷窓（さじきまど）と呼ばれ、元来は5月の日野祭の賑わいを、家の中から見るといって大変贅沢なものですが、こうしてお雛様を拝見するのも、なかなか風情のあるものですね。





町外れの崖の下に小さな泉がありました。「若草清水」です。きれいな水が湛えられています。蒲生氏郷は茶の湯をたしなみ、千利休の高弟の中でも筆頭に掲げられる程の人でした。

氏郷がこの泉の水を汲み、茶を点てたと云われる、小さいけれど由緒ある泉です。

この泉のすぐ近くにあるのが、蒲生家の菩提寺信楽院（しんぎょういん）です。氏郷の祖父定秀が開基し、蒲生氏が転出した後は、旧臣達が尽力して、この地に守り伝えて来たのだそうです。



本堂天井の雲竜図、飛天図などは日野出身の狩野派の絵師高田敬輔が、1743（寛保3）年に描いた、大画面の見事なものでした。近年評価の高い絵師曾我蕭白は、この高田敬輔の弟子だそうです。そう思うと、信楽院の天井絵も曾我蕭白に通ずるものがあるようにも思えましたね。

町の中心部、かつては大店が建ち並んでいた事でしょう。その店の一つが、今は町の観光協会になっています。看板にある「万病感応丸（まんびょうかんのうがん）」という薬を作り商う店でした。創始者は正野（しょうの）玄三（1659～1733年）。若い頃は日野商人として各地に行商していましたが、30代半ば母親の病気を機に医師を志して京で修業、やがて名声を得ます。

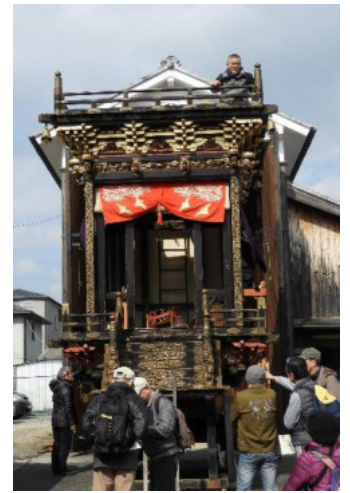
1701（元禄14）年42歳の時、郷里の日野に帰り、医業のかたわら、試行を重ねて開発したのがこの薬です。



私達が2年ほど前に燦歩した東近江市の五個荘と並んで、日野は近江商人の発祥の地として知られています。日野の町には中世から市があり、特に蒲生氏の城下町として楽市令が布かれ、商工業が栄えました。当初日野商人は、名産の漆器「日野椀」や小間物、茶、木綿などを各地に行商し、出先で仕入れた品々を上方で売り捌いて利益を上げていました。行きも帰りも稼ぐ、いわゆる「のこぎり商い」です。その中で「万病感応丸」は日野商人の行商の大切なグッズになって行きます。お椀に比べて、荷が小さく軽くなり、また利幅も大きくなり、業績が一気に拡大された訳です。これ以来、日野では製薬を業とする者が増加し、18世紀半ばには100軒を超えていたそうです。その伝統は永く続き、第2次大戦中の企業整備令によって、30数業者が合併して、冒頭に紹介した今日の日野薬品工業になって行くのです。

日野商人の商いは、事業規模を巨大にするのではなく、「日野の千両店」と云われるように、千両溜まったら出店を作り、小さいけれども沢山の店を出してネットワークを拡げて行く、という商法でした。多くは各地で醸造業を営んだそうです。

その日野商人たちの財力の一端を示すのが、日野の曳山でしょう。5月の日野祭りで町内を練り歩く豪壮な曳山。その一つが、この日公開されていました。町全体でこのような山が16基もあるのです。重厚な作りに、精緻な彫刻、全体にくまなく施された飾り金具、町の中を動く様は、まさに時代絵巻でしょう。この日は特別に、曳山の上まで登る事も許されていました。



燦歩の締めくくりに、その日野祭りで曳山が勢揃いする馬見岡綿向神社（うまみおかわたむきじんじゃ）にお参りします。馬見岡というのは、この辺りに朝廷の牧場があった事を伝えているそうです。綿向山は鈴鹿山脈の主峰の一つで（標高1,110m）、その頂上に鎮座していた神様をここに招いたのだそうです。

昼食後5人が先に離脱されたりして、全員ではありませんが。



この神社のあたり、かつて若松の杜（わかまつのもり）と呼ばれたとか。蒲生氏郷は1590（天正18）年、豊臣秀吉の命で会津へ移ります。伊勢松ヶ島の12万石から、石高は一気に増えて42万石。氏郷は会津の地で、この日野の若松の杜を懐かしんで、城の名を会津若松城としたと云われています。所領はその後増えて91万9千石の大大名になりますが、病を得て1595（文禄4）年、戦国の雄 蒲生氏郷は京で亡くなります。享年40、蒲生家も程なく断絶します。

帰途はバスで近江八幡まで出て解散しました。

\* \* \*

相変わらずの蛇足で失礼します。

### 日野城 の事

日野の東の町外れ、1534年頃に蒲生定秀(がもうさだひで)により築かれた城です。定秀の孫、後の蒲生氏郷はこの城で生まれ、人質として織田信長の許に送られますが、その器量を認められ、翌年には信長自らが烏帽子親となり元服。さらに信長は自分の娘を嫁がせて、日野に帰国させます。信長が如何に氏郷を気に入っていたかがうかがえます。

本能寺の変の際、父賢秀(かたひで)と氏郷は、安土に居た 信長の妻子をこの城にかくまい、明智光秀からの誘いを受け拒みます。

2年後天正12年、豊臣秀吉に抜擢されて氏郷は、伊勢松ヶ島12万石の城主となって日野を去りました。城はやがて廃城となり、今は、日野川ダムの建設によって、本丸跡の石垣、土塁などが僅かに残っているだけです。



### 松阪 の事

蒲生氏郷は松ヶ島に移り、4年の歳月をかけて、新しい城と町を築きます。それが今日の松阪(当時は松坂)です。豊臣秀吉はその際、日野の町を引き続き保護すると共に、「日野の町民が松ヶ島へ移る事は構わない」としています。氏郷は松阪にも楽市の制を布き、日野からの商人も居住させます。今、松阪駅のすぐ西、城にも近い所に「日野」という町があります。松阪に残る記録では、天正16年に近江の日野から商人たちが移って来たとあるそうです。

氏郷のその政策が、三井など後の伊勢商人の活躍につながるのです。

### いせみち(伊勢道) の事

日野の町から日野駅への帰途、こんな立派な石灯籠に出会いました。地面からの高さは3mはあるでしょうか。台石に「右 いせみち」と刻まれています。江戸時代後期、1812(文化9)年に建てられたものです。この道は、東海道と中山道を結ぶバイパスです。東海道の土山宿からほぼ北に向かい、東近江の五個荘で中山道に合流します。伊勢参りの人々が盛んに往来、また朝廷や幕府の使者が伊勢と多賀大社への代参の往来に利用した事から、後に「御代参街道」とも呼ばれるようになります。距離はおよそ35km。日野はそのほぼ中間に当たります。この道の北端五個荘から多くの近江商人が輩出したのも、交通の便のもたらした必然なのかも知れませんね。



### 「いがもち」 の事

近江で「いが」とは……? 写真の様なお菓子でした。

だんごの生地でこし餡を包み、それに近江米のもち米をまぶして蒸し上げたものだそうです。外見は「道明寺」に似て、食感は歯ごたえのしっかりした大福といった感じ。名の由来は、お店の方の言では「もち米が“いがいが”しているから」という事でした。辞書で調べてみたら「いがもち=毬餅」とありました。「毬」はあの栗のイガなどの事のようにです。おいしくてその上勉強になりました。



\* \* \*

## ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、毎月第4日曜日に歩いています。メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。(事前に予約が必要な場合もあります)

### 今後の予定

- 3月24日(日) 光秀ゆかりの福知山城と御霊神社を訪ねる(青春18切符 京都)
- 4月28日(日) 平城山丘陵の古墳と平城宮跡を訪ねる(奈良)
- 5月26日(日) 新緑の西教寺と大阿闍梨の飯室谷不動尊を訪ねる(滋賀)
- 6月23日(日) 『おこしやす』 京の五花街を巡る(京都)
- 7月28日(日) 日本遺産・生野銀山を訪ねる(兵庫) \*青春18切符を利用
- 8月 暑さを避けて 休会
- 9月29・30日(日・月) ツアー 美ヶ原の自然を満喫
- 10月27日(日) びわ湖バレーを楽しむ(滋賀)
- 11月24日(日) 京都一周トレイル第3回 蹴上から銀閣寺前まで(京都)
- 12月15日(日) 納会(大阪)
- 1月26日(日) ちんちん電車に乗って住吉さんから堺の街を歩く(大阪)
- 2月23日(日) 西行入寂の弘川寺と富田林寺内町を散策(大阪)
- 3月22日(日) 華岡青洲の里と粉河寺を訪ねる(和歌山) \*青春18切符を利用

参加ご希望の方は、会務担当山村恵一にご連絡下さい。(電話090-1484-4403)

一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

(写真・文 <sup>おじま</sup> 生島 幸弥)